－第13回韓日未来フォーラムin大阪報告書－

延世大学グローバル人材学部文化メディア3学年廣本愛里

作成日：2020．1.10（金）

今回大阪で開催された第13回韓日未来フォーラムでは2泊3日という短い時間でしたが韓日の大学生同士でそれぞれのテーマごとチームで分かれ発表まで全ての過程を実行委員の皆さんのサポートもあり無事に終わることができて本当に良かったです。

私は初めての参加でもあり興味の向くまま今回の韓日未来フォーラムに参加を決めました。去年の6月頃から日韓関係が過去最悪と呼ばれるほどにまで冷え込み政界はもちろん国民間にまで影響が及ばざる負えない限度まできているこの状況の中、私はこういう状況だからこそ、日本と韓国のこれからの時代を担う若い世代である私たちがお互いの文化や社会情勢、また問題となってる慰安婦問題等について考える機会が重要だと思います。

私は慰安婦問題チームとして2泊3日の間チームのみんなと意見を交換し合い、討論をして私たちが目指す日韓の未来へと繋ぐ解決策について最終的に考えるという方向で議論しあいました。私たちの班のテーマは1965年の日韓基本条約をもとに慰安婦問題がなぜ未だに解決されていないのかについての日韓間の双方の解釈の違いについての発表をすることになりました。私たちの班は10人でしたがそのうち今回の対外活動のために日本に来てくれた韓国人の大学生たちは4名、日本人学生は2名、そして実行委員が2名、翻訳係1名での構成でした。私は現に韓国の大学に在学しているため、韓国人の学生さんたちと慰安婦問題について話し合う機会が全くないというわけではないですが正式に対外活動でこの問題について討論できることが嬉しかったです。

実際私は日本にいる間、日韓関係についての知識が全くなく韓国の大学に進学してから授業や友人ら、また韓国のニュースを通して歴史問題に関しての興味を抱くようになりました。また日本の立場での意見を求められた際、あまりにも日韓間の歴史や情勢に対して自分の意見が言えないという姿に自分で自分を情けないと感じました。それから私は授業とは関係なく常に政治や歴史問題、社会情勢に関心を抱くようになり韓国にいる日本人、日本人留学生という立場での発言をできるように心がけるようになりました。そのため今回日本人学生は韓国人学生に比べて少ないというチーム構成に全く違和感なく私は日本人学生の立場で、日本側の慰安婦問題の解釈や条約の意見の行き違いについて発言することが出来ました。また

日本側の立場だけではなく韓国側の慰安婦問題での条約の解釈、真の謝罪とは何なのかについても韓国に住みながら感じる自分なりに感じる意見を言うことができました。また韓国人の大学生たちと今回慰安婦問題について話し合いながら一番感じたことはお互いに気になっている情報について深く知ろうとする心、またこの問題を解決しようと考える気持ちはお互い同じなんだということを改めて感じることが出来ました。私たちの班では常に自分の意見をだれ一人強要したりせず、チームのみんなの意見に耳を傾け最後まで発言者の話を聞く姿勢で討論が行われました。また途中で気になることが生じた際はすぐに尋ね、自分が持っている参考文献または意見を正直に伝えることで円滑に話が進みました。

一日目は一人ずつ慰安婦問題に関する情報提供という形で一人5分から10分程度の発表をチーム内で行い、発表が一つ終わるごとに質疑応答の時間を取りました。そして発表が終わると同時にすぐにテーマである1965年の日韓基本条約の解釈の違いについて具体的にどのような意見を持っているのか、どんな解釈の違いがあるのか、なぜ慰安婦問題は解決できないのか、解決するためにはどのような策が必要なのかについて話し合いました。

一日目は最終日の発表準備はせず私たちの班は意見交換また情報収集といった作業を行いました。二日目は前日にした情報を整理した上で発表過程を考えた上、それぞれ発表する担当の部分配置を定めプレゼンテーションまた発表文作成の準備に取り掛かりました。二日目は一日目とは違い朝から夜遅くまで発表準備を行いました。しかし私たちの休憩時間である昼食や夕食の際は討論の雰囲気とは全く違い、楽しく大学生らしい会話を弾ませ、まるで国籍の違う学生同士の集まりとは思えないほど会話の絶えない時間を過ごしました。お互い言葉は違っても相手を知ろうとする姿勢を話しながらとても感じることができ、今の政治に大切なことは相手を知ろうとすること、理解することではないのかと思いました。

三日目の最終日はついにそれぞれのチームの発表の日でもあり、他のチームはもちろん私たちのチームも緊張の中、発表を行いました。発表時間は40分、質疑応答30分の計70分の発表を行いました。どのチームも日本語、韓国語でプレゼンテーションを準備しており、また質疑応答の30分間全ての時間を使って無事に発表を終えました。私たちのチームもプレゼンテーションの操作を1人、実行委員の助けもあり、発表者6名、通訳係1名で準備した内容を他のチームの皆さんに私たちの考える慰安婦問題の解決策についての最終的な意見をチームの考えとして発表をしました。質疑応答では一番初めに慰安婦問題というテーマをする上で両国の歴史問題でもあるためチームの雰囲気について聞かれました。実際、私も難しい問題でもあるため討論をする前までは何か気に障るような言葉を言ってしまったらどうしようかという不安が少しありました。ですが討論を始めた瞬間からそのような心配は消え、むしろ自分の思っていること、知っていることを正直に話すことでもっと深みのある討論ができ、知らなかった情報や意見を知ることができました。他のチームから心配された雰囲気とは逆に素直に分かち合える機会となり私たちの班は絆が深まる場となりました。全ての発表が終わり閉会式へと私たちは初日に自分のマニトを当てる結果発表の時間を終え、無事に2泊3日の対外活動を終えました。

私は今回この韓日未来フォーラムでこの活動こそが今の日韓関係で求められている姿だということを実感しました。私は韓国の大学に通っているため常に大学では韓国人の学生と話しある環境にいますが、今回の主題のであった慰安婦問題に関しては友人らと深く話し合うという機会はそう多くありません。ですが今回参加をするにあたって日ごろ体験することのできない日韓の大学生がそれぞれの主題に短い期間の間、お互いの考えや意見だけではなく相手の国の解釈や文化を知るという経験ができて私は自分の知らないことを知る機会となり、また知っていた知識にプラスとなる情報を自分のチームだけでなく他のチームの発表を通して得ることが出来ました。そして一番良かったと思った部分は発表が終わり、別れの時、どのチームも名残惜しい感情を隠し切れず、別れを惜しむ姿、笑顔で笑いある姿を見たときです。この姿が今後の私たちが作っていかなければならない姿なのだと感じました。そして私たちが今、理想的に思われる姿を実現できているのだから、未来の友好的な日韓関係を私たちが作ることも不可能なことではない、可能な道であるということを感じました。